

【2024年度 学生交流委員会 事業報告】

委員長校	神戸常盤大学
副委員長校	神戸学院大学
委員校 (全:27校)	芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学 神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学 神戸女子短期大学、神戸親和大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学 兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
取組1	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施>WILL BE プロジェクト
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	参加加盟校数10校以上／年
取組2	<学生発信ブランディング>加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施
達成目標	情報公開数200取組以上
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上／年

目的
大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。 取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」 ・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。 上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

予算額	課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		
	取組1	テーマ型の学生交流プロジェクト 「WILL BEプロジェクト」	1,010,000円
	取組2-1	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	240,000円
	取組2-2	学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 (2025年2月28日、当初委託料金9,730,900円を1,000,000円減額に変更契約。 なお1,000,000円は2025年度に繰越)	8,730,900円 ※受託事業収入

期待される効果
他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。 【取組1】学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。 【取組2】参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。 上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-1)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数30名以上
課題を解決する 取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>①地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動
活動指標	参加団体5団体以上。個人参加15名以上。

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動 <内容> 1、加盟校が連携して、学生がボランティア活動や地域貢献活動に参加しやすい場、学修成果を発表できる場として、各大学が設置する施設を他大学学生にも活動先の一つとして開放・提供する。自学のプログラムやフィールドを加盟校の他大学の学生にも開放することで、学生間の交流を促進する。 2、行政・公的団体等が設置する地域の「子どもの居場所」も対象とする。 ※加盟校で拠点を開放いただける大学があれば、随時 活動場所を追加し、学生に周知する。 【開放施設】 ①ときわんモトロク(神戸市中央区・元町六丁目商店街) ②ときわんノエスタ・てらこやノエスタ(神戸市兵庫区・ノエビアスタジアム神戸) ③ときわんクニヅカ・てらこや(神戸市長田区・アスタくにつか4番館) ④あかしフリースペース トロッコ(明石市) <開催時期> 2024年5月下旬～2025年3月(予定) <募集対象> 加盟校学生 ※団体・個人問わず	◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動 公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの共催事業として実施している。 (協力:公益財団法人B＆G財団、あかしフリースペース トロッコ) (活動内容) ・学生のボランティア活動 【開催時期】2024年6月～2025年3月 【申込・参加学生数】申込者11校28名、参加者5校14名(のべ人数) (参加者内訳)活動先・学生所属校・人数は以下の通り ①②③ときわん:6名 神戸学院大学(2)、神戸女子大学(1)、兵庫県立大学(1)、流通科学大学(2) ④トロッコ:8名 神戸学院大学(3)、兵庫県立大学(1)、兵庫大学(4) ※11月29日時点 ・学生振り返りワークショップ(予定) 子ども支援に関わる学生たち同士で自身の活動を振り返り、子ども支援に対しての意見交換を行う。 【開催時期】2025年2月(予定) 【対象】①「地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動」にてこれまで活動したことがある学生②子ども支援に関わっている加盟校の学生 (自己評価) 6月～11月の実施期間で28名の申し込みがあり、子どもに関わるボランティアへの学生のニーズは一定数ある。必要に応じて学生には個別相談を行い、学生のボランティア活動の第一歩を踏み出すきっかけを提供できている。しかし、施設の開所時間が平日の日中(土日休)のため、通常の授業期間中は学生のマッチングが難しく、授業等と重なる場合、参加できても1回限りとなる傾向がある。申込者全員が活動できれば達成目標への到達を見込めるが、実際に活動できた学生は団体参加1団体2名、個人参加11名の計13名であり、本プログラムの継続には改善が必要と考える。	◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動 公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの共催事業として実施している。 (協力:公益財団法人B＆G財団、あかしフリースペース トロッコ) (活動内容) ・学生のボランティア活動 【開催時期】2024年6月～2025年3月 【申込・参加学生数】申込者11校30名、参加者5校21名(のべ人数) (参加者内訳)活動先・学生所属校・人数は以下の通り ①②③ときわん:12名 神戸学院大学(2)、神戸女子大学(1)、兵庫県立大学(3)、流通科学大学(6) ④トロッコ:9名 神戸学院大学(3)、兵庫県立大学(1)、兵庫大学(5) ・子どもにかかわる学生ボランティアふりかえりワークショップ 【開催時期】2025年3月6日 【対象】子どもに関わるボランティアに関心のある人 【参加者数】23名(加盟校:学生2名、教職員3名、加盟校外:学生4名、教職員4名、行政・団体9名、一般1名) ¥ (報告) 今年度、学生ボランティア30名の申し込みがあり、子どもに関わるボランティアへの学生のニーズは一定数あった。必要に応じて学生には個別相談を行い、学生のボランティア活動の第一歩を踏み出すきっかけを提供できた。しかし、施設の開所時間が平日の日中が中心のため、授業期間中は学生のマッチングが難しく、授業等と重なる場合、参加できても1回限りとなる傾向があった。申込者全員が活動できれば達成目標への到達を見込めたが、実際にワークショップ含めて、のべ27名であり、本プログラムの継続には改善が必要と考える。
達成目標に対する実績	参加学生数14名	参加学生数27名
活動指標に対する実績	1団体2名参加、個人参加12名	1団体6名参加、個人参加21名
自己評価基準:対到達目標 ※	2	—
自己評価基準:対継続性 ※	2	—

事業収支(※取組1-1、1-2、1-3の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円	170,393円	839,607円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
加盟校ならびに行政が有する子育て支援施設や子どもの居場所と連携するボランティア活動は、学生のニーズもあり、支援体制を構築できている点は評価できる。また、外部資金を活用して交通費等、学生の経済的負担を軽減できている点も評価したい。ただし、学業との両立(学校からの移動距離・授業時間等との兼ね合い)において、一部学生の参加にとどまる傾向があるため、より多くの加盟校学生が参加しやすい事業内容についても検討いただきたい。				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-2)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数10名以上
課題を解決する 取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>②「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 (正式名:ナガセケムテックスプレゼンツ 「ヴィクトリーナ姫路・大学コンソーシアムひょうご神戸 スポーツビジネスコンテスト」)
活動指標	参加学生のチーム活動／月1回以上(活動期間中)

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 地域の活性化に資する人材育成のためのプログラムとして、地域スポーツ振興をテーマに企画実施する。 <内容> 姫路を拠点に活動するプロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」が抱える事業課題について、ゼミ単位もしくは大学の垣根を越えて構成した学生プロジェクトチームで、課題解決につながる企画を立案。ヴィクトリーナ姫路へのプレゼンテーションを経て、その企画を学生が主体となってホームゲームで実施し、その効果を検証する。 学生にとっては、大学講義等で学んだことを実践する機会となり、深みのある学びが期待できる。 また、本事業を通じて、社会人として求められるスキルであるマーケティング思考やプロジェクトマネジメントを習得するきっかけとする。 <活動期間>2024年8月～2025年1月(予定) <募集対象>加盟校学生・ゼミ	◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 (活動内容) ・意見交換会(6/14):参加者11名(加盟校:学生1名、教職員3名、企業5名、行政2名) 【チーム活動・期間・場所等】 1、オリエンテーション(9/23・兵庫国際交流会館):参加者57名(加盟校:学生39名、教職員6名、加盟校外:高校生2名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 2、企画実施準備(9/24～11/9) 3、実践に向けて課題提案(10/12・オンライン) 4、ホームゲーム現地視察(11/2・ウインク体育館):参加者22名 5、企画プレゼン大会(11/10・神戸常盤アリーナ):参加者62名(加盟校:学生42名、教職員6名、加盟校外:高校生4名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 6、企画実施(コンテスト期間中、チームごとに実践) 7、結果発表・表彰式(2025/1/18予定) 【登録学生数】加盟校14校66名 (内訳)関西学院大学(1)、甲南大学(20)、神戸学院大学(9)、神戸芸術工科大学(1)、神戸国際大学(1)、神戸市外国語大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(1)、神戸女学院大学(1)、神戸親和大学(6)、神戸常盤大学(1)、兵庫大学(4)、兵庫教育大学(1)、兵庫県立大学(4)、流通科学大学(15) ※別途、兵庫県立姫路商業高校(2)オープン参加(コンテストの審査対象外での特別参加) 【参加者数】のべ130名(加盟校:学生82名、教職員15名、加盟校外:高校生6名、高校教職員4名、企業17名、行政6名) (自己評価) 3年目を迎えて本事業に注目した兵庫県(スポーツ課)が新たに共催者となり、社会的にも意義あるプログラムに発展した。企画時より連携体制と運営の充実を図り、活動指標・達成目標ともに到達し、当初計画通り事業を推進できている。しかし、次年度以降の事業継続について、兵庫県、共催・協賛企業より、兵庫県内・県外の非加盟校の学生に参加者枠を開放・拡大する要望が出ており、コンソ主催事業として事業を継続するには改善(検討)が必要であると考ええる。	◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 (活動内容) ・意見交換会(6/14):参加者11名(加盟校:学生1名、教職員3名、企業5名、行政2名) 【チーム活動・期間・場所等】 1、オリエンテーション(9/23・兵庫国際交流会館):参加者57名(加盟校:学生39名、教職員6名、加盟校外:高校生2名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 2、企画実施準備(9/24～11/9) 3、実践に向けて課題提案(10/12・オンライン) 4、ホームゲーム現地視察(11/2・ウインク体育館):参加者22名 5、企画プレゼン大会(11/10・神戸常盤アリーナ):参加者62名(加盟校:学生42名、教職員6名、加盟校外:高校生4名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 6、企画実施(コンテスト期間中、チームごとに実践):参加者95名 7、結果発表・表彰式:参加者87名 【登録学生数】加盟校14校66名 【参加者数】のべ312名(加盟校:学生217名、教職員26名、加盟校外:高校生10名、高校教職員8名、企業41名、行政10名) (内訳:加盟校学生参加者217名)関西学院大学(4)、甲南大学(56)、神戸学院大学(31)、神戸芸術工科大学(3)、神戸国際大学(3)、神戸市外国語大学(5)、神戸松蔭女子学院大学(3)、神戸女学院大学(4)、神戸親和大学(20)、神戸常盤大学(3)、兵庫大学(16)、兵庫教育大学(2)、兵庫県立大学(17)、流通科学大学(50) (報告) 3年目を迎えて本事業に注目した兵庫県(スポーツ課)が新たに共催者となり、社会的にも意義あるプログラムに発展した。企画時より連携体制と運営の充実を図り、活動指標・達成目標ともに到達し、当初計画通り事業を推進できた。しかし、次年度以降の事業継続について、兵庫県、共催・協賛企業より、兵庫県内・県外の非加盟校の学生に参加者枠を開放・拡大する要望が出ており、コンソ主催事業として事業を継続するには改善(検討)が必要であると考ええる。
達成目標に対する実績	参加学生数82名	参加学生数217名
活動指標に対する実績	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
自己評価基準:対到達目標 ※	4	—
自己評価基準:対継続性 ※	2	—

事業収支(※取組1-1、1-2、1-3の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円	170,393円	839,607円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
地元企業・協賛企業との連携プロジェクトとして3年目を迎え、新たに兵庫県が共催に加わるなど、プロジェクトの社会的価値が高まり、学生の地元企業理解や成長機会に本取組が寄与してきた実績を評価したい。同時に、次年度以降の継続については、連携先との協議の上、コンソ事業としてふさわしい関わり方を検討いただきたい。				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-3)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		
達成目標	参加学生数10名以上		
課題を解決する 取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携～		
活動指標	参加学生のチーム活動／月1回以上(活動期間中)		
計画(4月記載)		自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について 兵庫県では2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」に向けて「兵庫県万博推進室」を設置し、「ひょうごフィールドパビリオン」構想のもと、県内団体から「SDGs体験型地域プログラム」を公募して、関西を訪れる国内外のツーリストを兵庫県に誘致する観光施策をスタートしている。 学生交流委員会では「大阪・関西万博」を学生交流や学生の教育機会として位置づけ、自治体・企業・地域団体等と連携して、「兵庫県の大学生が兵庫県の魅力を自ら体感し、その魅力を発信する」取組を進める。 【内容】昨年度より、兵庫五国(5地域10市)の「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型地域プログラム」を行政・団体等と連携しながら、学生が5チームに分かれてモニター体験を行ってきた。今年度は、学生たちが各地域での学修成果を、兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市)の企画展「万博展」の企画の一つとして展示、成果発表を行う。ミュージアムの指導のもと、観光振興・地域貢献の観点から、学生が展示物を計画・制作し、会期中は、子ども向けのワークショップ等も展開予定。 【活動期間】2024年4月1日～10月6日(予定) ①“兵庫の魅力”発信のための紹介パネル・映像等の企画・制作(5月～6月) ②「ひょうごフィールド場ビリオンSDGs体験型地域プログラム」課題解決プラン・プレゼンテーション(8月31日) ③兵庫県立兵庫津ミュージアム「万博展」での学生プロジェクト成果展示(7月20日～9月23日) ④最終報告会(10月6日) 【対象エリア】兵庫五国(5エリア) ・摂津(尼崎市・川西市) ・播磨(多可町・西脇市) ・但馬(豊岡市) ・丹波(丹波市・丹波篠山市) ・淡路(淡路市・南あわじ市) 【共催】兵庫県立兵庫津ミュージアム		◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について (活動内容) 1、「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型プログラム」学生モニター体験ツアー 【開催日(訪問先)・参加者数】 ①2024年4月1日(摂津)・23名(学生10名、教職員2名、企業3名、行政・団体8名) ②2024年4月5日(淡路)・20名(学生3名、企業5名、行政・団体12名) ③4月14日(西脇)・8名(学生2名、企業6名) 計51名(学生15名、教職員2名、企業14名、行政・団体20名) 2、兵庫津ミュージアムの企画展「未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン」(以下「万博展」) 【期間】2024年6月2日(日)～9月15日(日) 【場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市兵庫区中之島2丁目2-1)ほか 【参加者】総計190名(のべ人数):(学生11校61名、教職員5校5名、企業9名、団体・行政19名、一般96名) 【参加学生のチーム活動】 1)展示制作ワーク(6/2・16・30、7/7・14、8/18の計6回):計59名 2)運営学生のInstagram広報活動:14投稿 3)「万博展」開会式・内覧会(7/19)・展示見学会(7/20):計5名 4)「ひょうごフィールドパビリオン体験ワークショップ」第1回(9/14):計41名(学生4名、教職員3名、一般34名)、第2回(9/15):計40名(学生4名、教職員1名、一般35名) 5)学生フォーラム「ひょうご五国の魅力体験」(9/15・台風のため当初予定8/31を延期開催):計45名(学生10名、企業2名、団体6名、一般27名) (自己評価) 2025年大阪・関西万博を契機に、産官学連携の学生交流プロジェクトとして本取組を2か年にかけて、当初計画通り実施することができた。活動目標・達成目標ともに到達しており、学生が自ら発見した兵庫の魅力を発信する体験を通じて、地域で活躍、貢献する人材の育成に寄与できたと考える。	◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について (活動内容) 1、「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型プログラム」学生モニター体験ツアー 【開催日(訪問先)・参加者数】 ①2024年4月1日(摂津)・23名(学生10名、教職員2名、企業3名、行政・団体8名) ②2024年4月5日(淡路)・20名(学生3名、企業5名、行政・団体12名) ③4月14日(西脇)・8名(学生2名、企業6名) 計51名(学生15名、教職員2名、企業14名、行政・団体20名) 2、兵庫津ミュージアムの企画展「未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン」(以下「万博展」) 【期間】2024年6月2日(日)～9月15日(日) 【場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市兵庫区中之島2丁目2-1)ほか 【参加者】総計190名(のべ人数):(学生11校61名、教職員5校5名、企業9名、団体・行政19名、一般96名) 【参加学生のチーム活動】 1)展示制作ワーク(6/2・16・30、7/7・14、8/18の計6回):計59名(学生39名、教職員1名、企業・団体19名) 2)運営学生のInstagram広報活動:14投稿 3)「万博展」開会式・内覧会(7/19)・展示見学会(7/20):計5名(学生4名、企業1名) 4)「ひょうごフィールドパビリオン体験ワークショップ」第1回(9/14):計41名(学生4名、教職員3名、一般34名)、第2回(9/15):計40名(学生4名、教職員1名、一般35名) 5)学生フォーラム「ひょうご五国の魅力体験」(9/15・台風のため当初予定8/31を延期開催):計45名(学生10名、企業2名、団体6名、一般27名)(報告) 2025年大阪・関西万博を契機に、産官学連携の学生交流プロジェクトとして本取組を2か年にかけて、当初計画通り実施することができた。活動目標・達成目標ともに到達しており、学生が自ら発見した兵庫の魅力を発信する体験を通じて、地域で活躍、貢献する人材の育成に寄与できたと考える。
達成目標に対する実績		参加学生数61名	参加学生数76名
活動指標に対する実績		月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
自己評価基準:対到達目標 ※		4	—
自己評価基準:対継続性 ※		3	—

事業収支(※取組1-1、1-2、1-3の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円	170,393円	839,607円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年「大阪・関西万博」と連動して、当初計画通り、2か年にわたり、単なるお祭りの交流活動にとどまることなく、地域課題の解決も視野に入れて、兵庫の魅力を発見・発信する学生の活動そのものが、兵庫県の魅力向上に寄与した点は評価したい。今後も、加盟校の学生が地域で活躍する姿を国内外に発信機会するがあれば、取り組んでいただきたい。				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組2-1)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進	
達成目標	情報公開数200取組以上	
課題を解決する 取組概要	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施	
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年	
計画(4月記載)		報告(3月記載)
◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・計画する。 <内容> 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。	◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 (活動内容) 加盟校からの情報提供をもとに、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上からもリンクされた「note」に「地域で輝く学生」と題した読み物記事の連載を行っている。通年で、地域で学生が活躍する姿を広く周知している。 【掲載実績】10校21取組 (自己評価) 中長期計画Ⅱ期(5か年)の達成目標である「情報公開数200取組以上」を目指して、本年度は委員校が1校あたり2取組を今年度内に掲出する計画を立てて、活動しており、活動指標・達成目標ともに到達する予定である。 学生の活動内容が多様であるため、各校において情報の取捨選択が難しい場合があるが、地域人材として学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に周知することは、大学が取り組む地域貢献の理解促進に寄与する観点から、本プログラムは継続しても良いと考える。	◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 (活動内容) 1、加盟校からの情報提供をもとに、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上からもリンクされた「note」に「地域で輝く学生」と題した読み物記事の連載を行っている。通年で、地域で学生が活躍する姿を広く周知している。 【掲載実績】55取組(20校49取組、コンソ事業6取組) 2、【取組1-3】“兵庫の魅力”Student Treasure Hunt Project『未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン』運営学生スタッフによるInstagramでの広報活動を行った。 【掲載実績】14投稿 3、メディア掲載 ■ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト ・「バレーのヴィクトリーナ盛り上げるアイデア競う スポーツビジネスコンテスト 神戸親和大が最優秀賞」神戸新聞.2025年1月20日/ネットニュース5記事:共同通信PRワイヤー/紀伊民報/沖縄タイムス/高知新聞/exciteニュース.2025年1月21日 ■若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 「経験なき「あの日」継承模索」毎日新聞.2024年10月13日/「地元大学生が動画制作・・・「震災教訓、次世代へ阪神・淡路大震災30年」時事通信.2025年1月17日 【掲載実績】8記事 ※2022～2024年度:計156取組 (2024年度:68取組、2023年度:27取組、2022年度:28取組) (報告) 中長期計画Ⅱ期(5か年)の達成目標である「情報公開数200取組以上」を目指して、本年度は委員校が積極的に取組を掲出する計画を立てたことにより、活動指標・達成目標ともに到達した。メディア掲出も含めて、地域人材として学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に周知された事は、大学による地域貢献の理解促進にも寄与したと考えられる。
達成目標に対する実績	74取組	165取組
活動指標に対する実績	21取組(年内40取組掲載予定)	77取組
自己評価基準:対到達目標 ※	2	—
自己評価基準:対継続性 ※	3	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
240,000円	15,700円	224,300円	78,700円	161,300円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
コンソHP上にて「地域で輝く学生」と題して、各加盟校の特長ある地域活動を通じて、学生が地域に貢献する姿をわかりやすく伝え、コンソーシアム加盟校全体の認知度が高まる活動は重要である。次年度も引き続き、広報活動の活発化に取り組んでいただきたい。				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組2-2)】

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進	
達成目標	参加加盟校数10校以上/年	
課題を解決する 取組概要	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施 学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」	
活動指標	個人参加15名以上	
計画(8月記載)		報告(3月記載)
◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 (兵庫県危機管理部防災支援課受託事業) *6月理事会承認 【受託期間】2024年8月1日～2025年10月31日 【目的】 阪神淡路大震災30年の節目を迎えるにあたり、震災の風化を防ぎ、次世代に震災の経験と教訓を繋いでいくことを目的としている。 【内容】 震災を知らない若者が、震災から学び、教訓として次世代に何を伝えていくかをテーマに、調査や取材による動画制作とSNS等での発信を通して、若者の視点で防災・減災啓発における情報を、地域社会に伝えていく。 コンソは加盟校から参画学生を広く募集し、チームの立ち上げ、活動を支援する。学生の教育的観点からは震災を主体的に深く学び、創作意欲や協調性の醸成、活動は地域の防災意識の向上や活性化に繋がる取組みであり、広報(ブランディング)活動の一環ともなる。 【スケジュール】 ●募集期間：9月初旬～30日 ●防災・減災啓発動画制作・配信 活動期間：2024年10月～2025年2月末 10月初旬：全体会議(キックオフ) ～11月中旬：台本作成・完成、調査、取材など 班別に活動 ～12月中旬：撮影シーンの確定 (全体会議は計3回予定) ～1月中旬：撮影実施 ～2月末：完成動画の公開予定 (HP、SNSなどでの発信) *2025年開催の大阪関西万博 ひょうごEXPO week 「災害からの創造的復興」での上映も検討中 ●防災・減災啓発情報のSNS等での発信 活動期間：2024年11月(予定)～2025年10月末	◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 ●防災・減災啓発動画制作・配信 【参加学生数】6校11名 ・関西学院大学(4)・甲南大学(2) ・神戸学院大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(2) ・神戸親和大学(1)・兵庫県立大学(1) (活動内容) ① 第1回全体会議(キックオフ)実施 【開催日】2024年10月12日 【会場】兵庫国際交流会館2F 研修室1 【参加者】11名(兵庫県危機管理部防災支援課1名、企業1名、学生9名) 3班に分かれテーマ別に3本の動画作成する。 ② 第2回全体会議 【開催日】2024年11月5日 【会場】兵庫国際交流会館1F ナダコムステーション 作成台本案について意見交換 ③ 第3回全体会議 12月2日開催予定 ④ 被災地ワークショップ研修(能登半島調査・ボランティア 1月中旬 詳細計画中) ⑤ 動画公開:2月末予定 ●防災・減災啓発情報のSNS等での発信 活動予定:2025年1月～2025年10月末 (自己評価) 学生目線の分かりやすい防災動画制作すべく、各班ごとにWEB会議、台本制作等の活動を行った。学生が自ら大震災を学び、その教訓を捉え次世代にメッセージを繋げると共に、主体的な創作や仲間との協調性を育む新たな交流、教育機会ともなっている。来年2月末の動画完成後の大阪・関西万博会場での上映を見据えて活動を進めている。 8月に受託事業の計画が変更され、募集期間が短くなったこと等により、現時点では活動指標・達成目標は計画をやや下回っているが、震災の教訓や防災・減災への学生の関心を高めるべく、SNS情報発信活動において、学生の参加募集を行い、本事業のさらなる充実を図る予定である。	◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 ●防災・減災啓発動画制作・配信 【参加学生数】6校11名 ・関西学院大学(4)・甲南大学(2) ・神戸学院大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(2) ・神戸親和大学(1)・兵庫県立大学(1) (活動内容) ・全体会議(第1回～8回) 【開催日】8回(2024/10/12・11/5・12/2・12/20・2025/1/8・1/21・2/1・2/16) 【参加者数】のべ69名 ・被災地ワークショップ研修(能登半島調査・ボランティア研修 1月10-12日実施) 【参加学生数】5校14名 ・動画公開:3月末予定 ●若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」阪神・淡路大震災30年リメンバー117プロジェクト～若い世代の言葉で、震災・防災を語る～メディア取材編集・発信 【活動期間】2025年2月～2025年10月 【参加者】14名 (内訳)加盟校学生14名:関西学院大学(4)、神戸学院大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(2)、兵庫県立大学(6)、神戸常盤大学(1) (報告) 防災動画制作は、震災映像や伝えたい教訓の画像、入手に苦労したが、学生が自らAI画像生成なども行い、編集され3月末に完成予定。学生が大震災を学び、能登半島地震被災地でのワークショップ研修も行った。次世代にメッセージを繋げると共に、主体的な創作や仲間との協調性を育む交流、教育機会ともなった。動画完成後は大阪・関西万博会場等での上映予定もある。 8月に受託事業の計画が変更され、募集期間が短くなったこと等により、活動指標は達成・達成目標は計画をやや下回っているが、震災の教訓や防災・減災への学生の関心を高めるべく、今後のSNS情報発信活動において、次年度も引き続き本事業のさらなる充実を図る予定である。
達成目標に対する実績	参加加盟校数:6校	参加加盟校数:7校
活動指標に対する実績	個人参加11名	個人参加25名
自己評価基準:対到達目標 ※	3	—
自己評価基準:対継続性 ※	4	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
8,730,900円 (2025年2月28日、当初委託料金9,730,900円を1,000,000円減額に変更契約。なお1,000,000円は2025年度に繰越)	2,339,972円	7,390,928円	8,730,900円	8,730,900円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが兵庫県の防災啓発動画を作成する本取り組みは、意義深い活動であると評価できる。次年度は、SNSを活用した情報発信活動の実施、また全国コンソーシアム研究交流フォーラムにて、加盟校での各取り組みと共に、オールひょうごとして防災・減災への意識向上に向けて発信いただきたい。				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

2024年度 学生交流委員会 事業決算

(単位:円)

		予算額	決算額	各プログラム 予算・決算									委員会 予算・決算				
				取組1 WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」			取組2-1 学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」			取組2-2 学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」							
				内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額		
収入	会費収入	1,350,000	305,283		1,010,000	170,393		240,000	78,700					100,000	56,190		
	助成事業収入	0	0														
	受託事業収入	8,730,900	8,730,900							兵庫県危機管理部委託業務	8,730,900	8,730,900					
	プログラム収入	0	0														
	雑収入	0	0														
	戻入金	0	0														
	計	10,080,900	9,036,183	1,010,000			170,393	240,000			78,700	8,730,900			8,730,900	100,000	
支出	会議費	126,200	37,082	交流会・反省会	100,000	2,756				会議費	16,200	34,326	会議費	10,000	0		
	旅費交通費	1,305,400	249,260	交通費・昼食費	700,000	14,020	交通費・昼食費	30,000	0	交通費・昼食費	565,400	230,920	旅費交通費	10,000	4,320		
	通信運搬費	310,400	735,928	Zoom	0	13,636	通信費	10,000	18,700	通信費	290,400	679,832	通信費	10,000	23,760		
	消耗品費	330,000	525,198	消耗品	10,000	14,756				消耗品	310,000	510,442	消耗品	10,000	0		
	新聞図書費	0	18,136							参考図書		18,136					
	印刷製本費	0	112,901							コピー代		112,901					
	光熱水料費	0	0														
	賃借料	30,000	202,115	会場費	0	124,400					30,000	77,715					
	保険料	50,000	65,454								50,000	65,454					
	謝金	250,000	0	講師等謝金	50,000	0	謝金・原稿料等	200,000	0	講師等謝金							
	租税公課	0	10,000								10,000						
	支払手数料	30,000	7,235	振込手数料	0	825				振込手数料		6,300	振込手数料	30,000	110		
	諸会費	190,000	95,000	ブース等出店料	150,000	0					40,000	95,000					
	委託費	4,018,900	3,088,000				HP更新費	0	60,000	製作費等	3,988,900	3,000,000	各プログラムHPに係る予備費	30,000	28,000		
	人件費	3,440,000	3,889,874								3,440,000	3,889,874					
	接待交際費	0	0														
	支払支援金	0	0														
	雑費	0	0														
	計	10,080,900	9,036,183	1,010,000			170,393	240,000			78,700	8,730,900			8,730,900	100,000	

収入－支出	1,044,717
-------	-----------

【取組2-2】学生発信ブランディング「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」2025年2月28日、当初委託料金9,730,900円を1,000,000円減額に変更契約。
なお1,000,000円は2025年度に繰越